

第7回

【日 時】 平成25年11月16日（土）

【場 所】 石巻専修大学4号館1階 4103教室

【テーマ】 「住みたい、行きたいまちとは」

【講 師】 丸岡 泰 氏（石巻専修大学 経営学部教授）

【使用したテキスト】

- ・『耕人』H25_7.pdf （塾長から塾生へのメッセージ：第7号）

【活動内容詳細】

18：30 開会の挨拶（木村塾長）

概要：塾長は、ANA初の女性パイロット小林郁子さんの話を取り上げ、「小林さんは、24歳の時に「絶対パイロットになる」と決めてから11年かかり、現在エアセントラルの副操縦士として活躍しています。自力で免許を取得するためには1千万円のお金と猛勉強と厳しい訓練が必要で、休日返上で働いて資金を貯め、寸暇を惜しんで勉強をし、厳しい訓練にも耐え抜いたそうです。小林さんは、「ああなりたい」とか「こうなりたいとか」口にされる方は大勢いますが、行動に移さない方が多いので「本当になりたいと思っているの?」と感じてしまうそうです。「こうなりたい」という思いが本当にあれば、そのように自分で行動していくと思うとも述べています。そうしなければただの願望で終わってしまうし、夢に近づくことだってできないと思いますとも述べています。」と話されました。

さらに塾長は、「心が変われば行動が変わる 行動が変われば習慣が変わる 習慣が変われば人格が変わる 人格が変われば運命が変わる」という松井秀喜の恩師である山下智茂さんを言葉を取り上げ、ショート講話を閉じました。

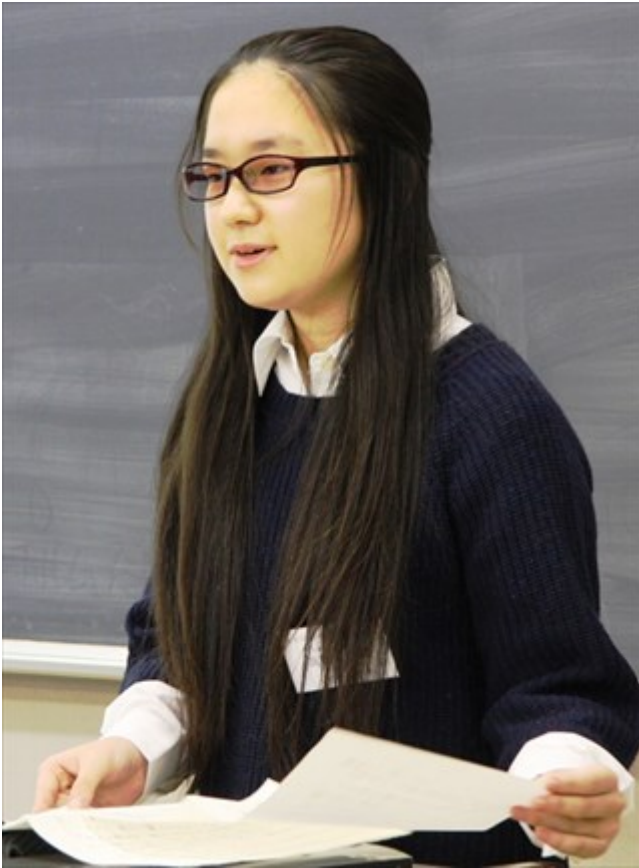


18:35 「高橋花織さんの弁論発表」

第51回石巻地区中学校生徒弁論大会で、最優秀賞となった塾生高橋花織さんの弁論を発表してもらいました。

高橋さんは、耕人塾の活動を弁論の内容として取り上げ、「出会いの扉」の演題で意見を発表しました。弁論の中で高橋さんは、「中高生を対象にした人間力を磨く耕人塾で多分野の講師に接し、人間は一人では生きていけない。多くの出会いを重ね、新しい自分と会うことができた」と述べました。

塾生はもちろん、会場にいた大人達の心を揺さぶる素晴らしい発表でした。



18:40 『住みたい、行きたい街とは』

概要：石巻地方の経済発展には、観光が重要ではないかという視点で研究をしていらっしゃる石巻専修大学経済学部教授の丸岡先生から、『住みたい、行きたいまちとは』というテーマでお話をいただきました。

はじめに、丸岡先生は、「住む人が好むまちと観光客が好むまちは少し違うこともある」と話されました。そして、「全員が気に入るまちづくりは困難であり、あるものを簡単に取り除くことはできない。そこで、最大公約数となるまちの個性を磨くことが大切です。」と話され、いくつかのまちの事例を紹介してくださいました。

事例の1つは、炭鉱で栄えていた頃は世界一の人口密度で今は無人島となった長崎市端島（軍艦島）でした。事例を基に、日本の地方の町の現状は、第一次産業（農業・漁業）が停滞し、第二次産業（製造業）は空洞化（アジアへ）、第三次産業（サービス業）が経済の中心となっていると話されました。さらに、第三次産業はお客様の多い都市部に集中するが、観光は地方で可能性がある数少ない有望なサービス産業になると話されました。

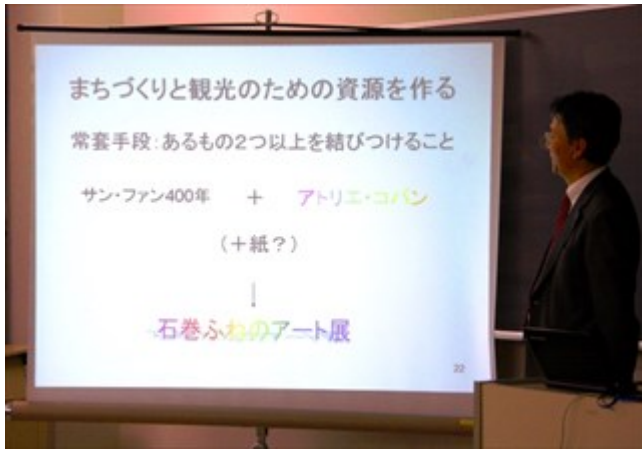


次に、石巻というまちについてお話いただきました。石巻は港町でありまちの骨格は来訪者向けにで

きているが、200カイリ規制や捕鯨の困難化などから、来訪者は漁業関係者から家族連れへと変化してきていると話されました。

このような状況にある石巻で、まちづくりと観光の資源として何があるのか、そのいくつかが紹介されました。紹介されたのは、アート活動が活発な石巻の姿やサン・ファン・パウティスタ号で出航した慶長使節、石巻名産の牡蠣などでした。

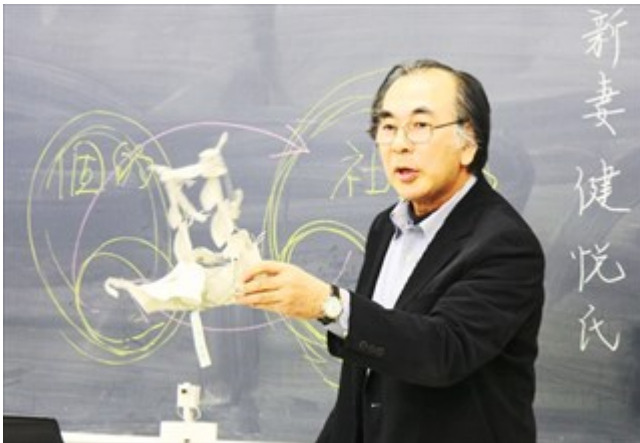
そして、それらの観光資源を結びつけ、相乗効果を図ることが大切だと話されました。



講話の最後に丸岡先生は、「みなさんの石巻活性化への挑戦に期待しています。」と塾生に話されました。

19:40 『アトリエ・コパン新妻先生によるワークショップ』

続いて、丸岡先生の講話でも取り上げられたアトリエ・コパン主宰の新妻健悦先生にワークショップをしていただきました。



はじめに新妻先生は、「人には〈社会的存在〉の部分と〈個的存在〉の両面があり、バランスが取れていることが大切です。そして、造形活動にも〈他者に伝える表現〉と〈自分自身の気持ちのまま表現〉する2つがあり、この2つを行ったり来たりするのが実際の造形活動です。」と話されました。

このような考え方を踏まえて、紙でサン・ファン・バイティスタのような船をつくる活動が行われました。



どの塾生も夢中になって、紙と向き合って作り続けていました。その姿は、まさに〈他者に伝える表現〉と〈自分自身の気持ちのまま表現〉する造形活動そのものでした。

メニュー

ホーム

耕人塾の活動

令和2年度の活動

令和元年度の活動

平成30年度の活動

平成29年度の活動

平成28年度の活動

平成27年度の活動

平成26年度の活動

平成25年度の活動

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

修了式

平成24年度の活動

報道・受賞